

岡山県感染症週報 2026 年第 28 週 (7 月 6 日 ~ 7 月 12 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

◆2026 年 第 28 週 (7 / 6 ~ 7 / 12) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況 (第 28 週届出分)

第 26 週 5 類感染症 梅毒 1 名 (50 代 男)

第 27 週 5 類感染症 梅毒 1 名 (50 代 男)

百日咳 1 名 (小学生 女)

第 28 週 2 類感染症 結核 4 名 (20 代 男 1、50 代 男 1、70 代 男 2)

4 類感染症 レジオネラ症 6 名 (30 代 男 1、50 代 男 1、60 代 男 3、70 代 男 1)

5 類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (80 代 女)

梅毒 5 名 (10 代 女 1、20 代 男 1・女 1、30 代 女 1、60 代 男 1)

百日咳 3 名 (30 代 女 2、40 代 女 1)

食中毒注意報
発令中!



© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

○新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 80 名 (定点あたり 1.60 人) の報告がありました。

○急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で 2,545 名 (定点あたり 50.90 人) の報告がありました。

○手足口病およびヘルパンギーナの報告数が多くなっています。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 80 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 0.82 → 1.60 人)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#) をご覧ください。
2. [急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#) は、県全体で 2,545 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 49.40 → 50.90 人)。詳しくは、「[☆急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報』](#) をご覧ください。
3. [梅毒](#) は、2026 年第 28 週に 5 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 89 名となりました (2025 年の同時期：147 名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『梅毒について』](#) をご覧ください。
4. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#) は、県全体で 40 名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり 2.75 → 1.43 人)。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
5. [手足口病](#) は、県全体で 199 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 6.89 → 7.11 人)。地域別では、備中地域 (17.00 人)、備前地域 (9.00 人)、岡山市 (8.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。
6. [ヘルパンギーナ](#) は、県全体で 52 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 1.71 → 1.86 人)。地域別では、備中地域 (7.00 人) で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、夏かぜの一種であり、例年 7~8 月頃が流行のピークとなります。病気の特徴、予防法は [『ヘルパンギーナ』 \(国立健康危機管理研究機構\)](#) をご覧ください。

流行の推移

疾病名	定点あたり 報告数		推移	疾病名	定点あたり 報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.12	0.04	↓	突発性発しん	0.46	0.39	↓
COVID-19	0.82	1.60	↑	ヘルパンギーナ	1.71	1.86	→
急性呼吸器感染症(ARI)	49.40	50.90	→	流行性耳下腺炎	0.04	0.00	↓
RSウイルス感染症	0.07	0.11	↑	急性出血性結膜炎	0.17	0.00	↓
咽頭結膜熱	0.25	0.18	↓	流行性角結膜炎	0.08	0.17	↑
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.75	1.43	↓	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	4.14	3.64	↓	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.25	0.36	↑	マイコプラズマ肺炎	0.20	0.60	↑
手足口病	6.89	7.11	→	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	0.07	0.21	↑	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移

↑ : 増加

→ : ほぼ増減なし

↓ : 減少

増加・減少 : 前週比10%以上の増減

夏休みに海外へ渡航される方へ

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。
渡航先の感染症に対する予防対策が必要です。

出発前の注意

- ・感染症に対する正しい知識と予防方法を身に付けましょう。
- ・渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

旅行中の注意

- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダや生乳など、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、こまめに虫よけ剤を使用するなど蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
(狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。)
- ・外出後、トイレの後、食事前にはしっかり手洗いをしましょう。



©岡山県「ももっち・うらっち」

帰国した後に

- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

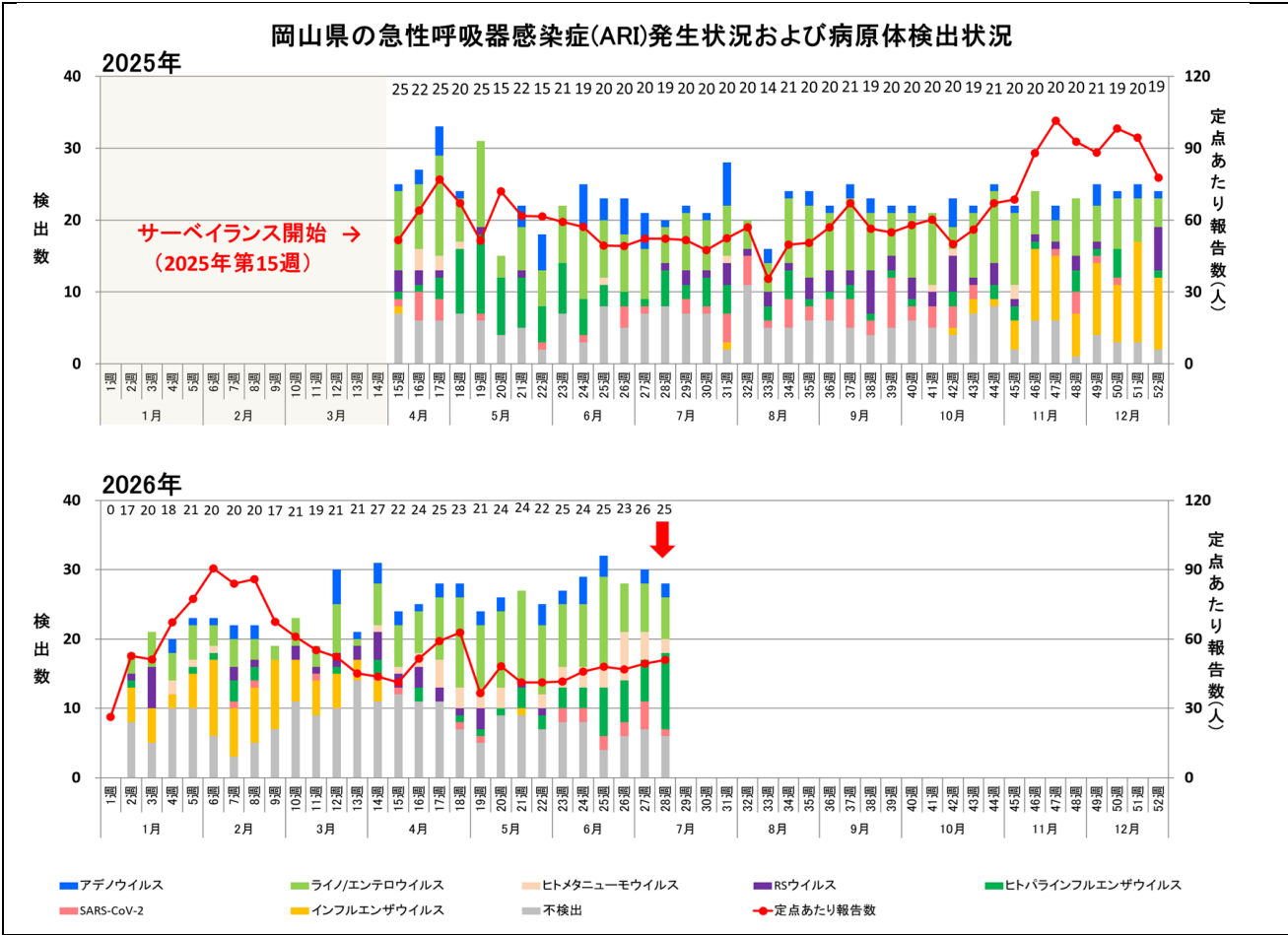
[海外へ渡航される皆様へ（厚生労働省）](#)

[海外渡航者・帰国者向けの啓発ツール（厚生労働省）](#)

[海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所 FORTH）](#)

★急性呼吸器感染症（ARI）情報

1. 岡山県の流行状況（第 28 週（ 7 / 6 ～ 7 / 12 ））



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
※グラフ上部の数字は検体数を示しています。
※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）
※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,545 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 49.40 → 50.90 人）。地域別では、備中地域（93.40 人）、岡山市（59.61 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

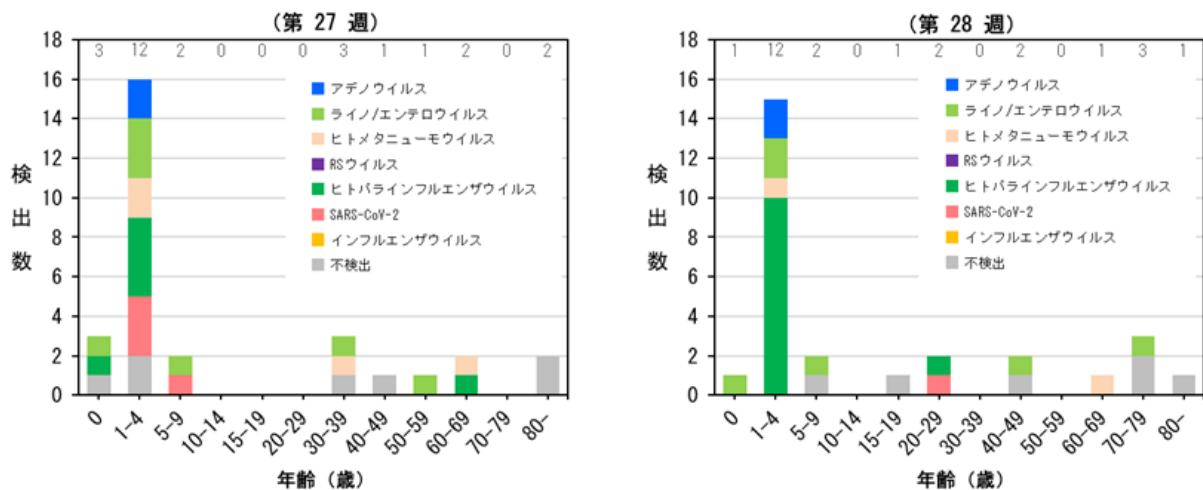
2026 年第 27 週および第 28 週に採取された検体から検出された病原体は 45 株でした（詳細は次表参照）。

【第 27 週および第 28 週 岡山県環境保健センターにおける病原体検出状況】

	第 27 週	第 28 週	計*
検体数（うち不検出数）	26(7)	25(6)	51(13)
インフルエンザウイルス	0	0	0
SARS-CoV-2	4	1	5
ヒトバラインフルエンザウイルス	6	11	17
RS ウイルス	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	4	2	6
ライノ/エンテロウイルス	7	6	13
アデノウイルス	2	2	4
計	23	22	45

* 重複あり

○年齢別病原体検出状況



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。

※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。

※グラフ上部の数字は各年齢別の検体数を示しています。

※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

2. 新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）](#)

今週の注目感染症①

★A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

●A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

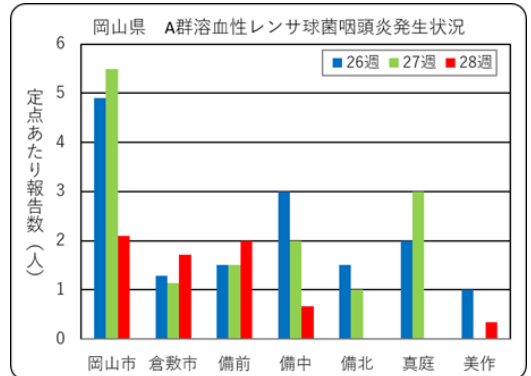
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による呼吸器感染症で、主な感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染です。そのため、家庭や、学校・保育施設などでの感染も多いとされています。

潜伏期は 2～5 日で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。咽頭炎、扁桃炎のほか、口腔内に点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。通常、3～5 日以内に解熱し、主症状は 1 週間以内に消失する予後良好の疾患ですが、点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現する猩紅熱と言われる全身症状を示すことがあります。その他、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすこともあります。

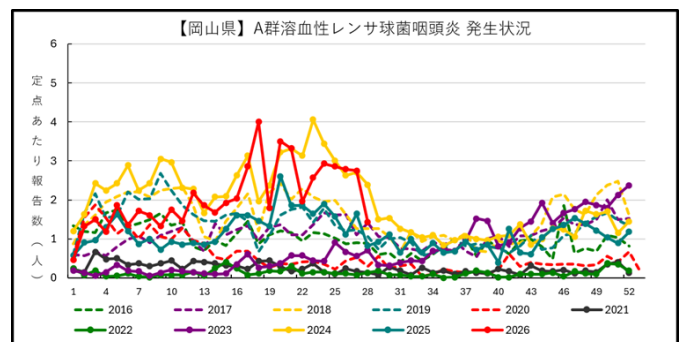
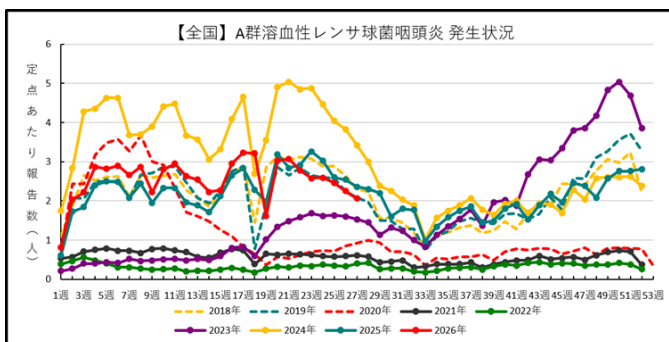
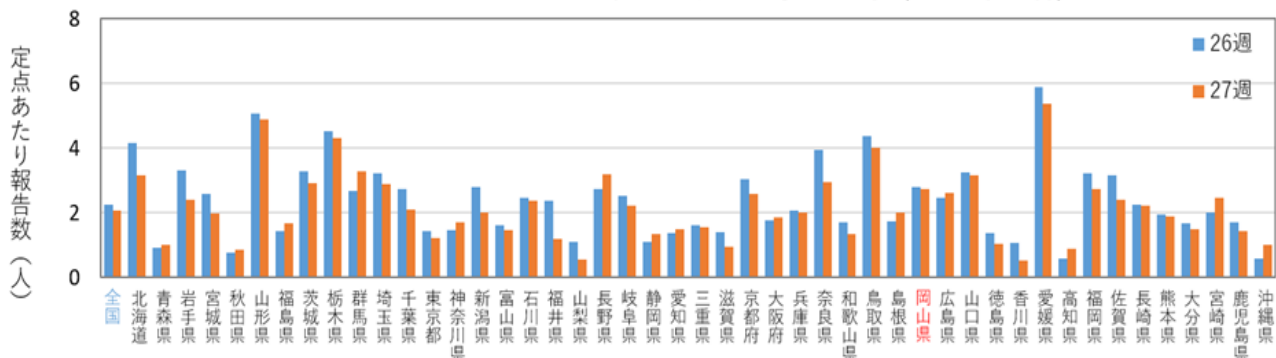
●発生状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の全国の第 27 週（6/29 ～ 7/5）の発生状況は、定点あたり報告数が 2.06 人であり、前週（2.25 人）とほぼ同数でした。都道府県別では愛媛県（5.38 人）、山形県（4.88 人）、栃木県（4.33 人）の順で多くなっています。

岡山県においては 4 月以降、定点あたり報告数が例年より多い傾向が続いています。第 28 週（7/6 ～ 7/12）は県全体で 40 名の報告があり、前週から減少しました（定点あたり 2.75 → 1.43 人）。地域別では岡山市（2.10 人）、備前地域（2.00 人）、倉敷市（1.71 人）の順で多くなっています。



2026年 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況（都道府県別）



●治療・予防方法

治療にはペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合はマクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な感染防止策が効果的とされています。発熱、咽頭痛などの症状がみられる場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください⇒[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（厚生労働省）](#)

[A 群溶血性レンサ球菌感染症（国立健康危機管理研究機構）](#)

【関連情報】

★劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主に A 群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる感染症です。突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行しますが、劇症型へと進行する理由はいまだ不明です。年齢別にみると 30 代以上の年代で多く発症しています。

全国では第 27 週に 13 名が報告され、2026 年の累計は 709 名となっています（2026 年 7 月 8 日時点）。

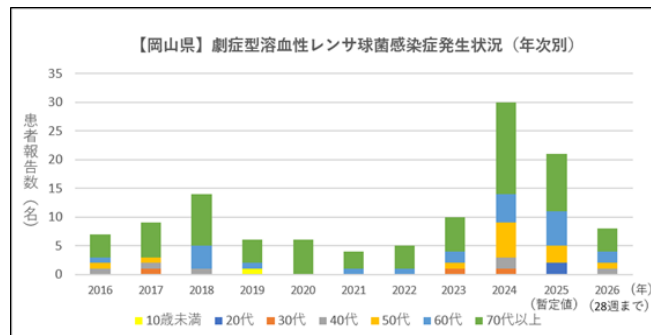
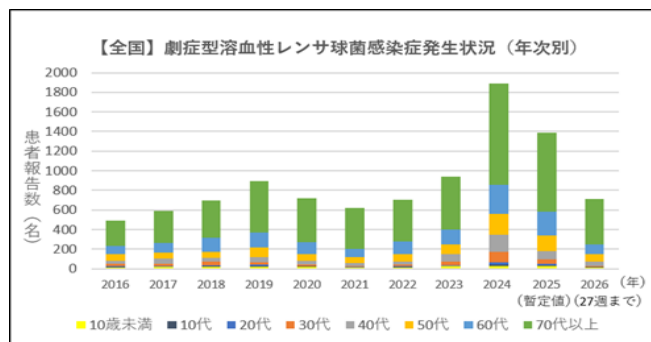
岡山県では第 28 週の報告はなく、2026 年の累計は 8 名となっています（2026 年 7 月 15 日時点）。

手指衛生や咳エチケット、怪我をした際の清潔な処置等に努め、発熱、咽頭痛や創部の発赤、腫脹、痛みなどの症状がある場合は早めに医療機関を受診しましょう。

詳しくはこちらをご覧ください

⇒ [劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）（厚生労働省）](#)

[劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）（国立健康危機管理研究機構）](#)



ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)※、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ [日本紅斑熱（国立健康危機管理研究機構）](#)

⇒ [重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）](#)

⇒ [つつが虫病（国立健康危機管理研究機構）](#)

⇒ [マダニ対策、今できること（国立健康危機管理研究機構）](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

今週の注目感染症②

★手足口病

●感染経路および症状

手足口病は、夏季に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。飛沫感染や接触感染、糞口感染（便中に排泄されたウイルスが手指などを介して口に入る）などによって感染します。

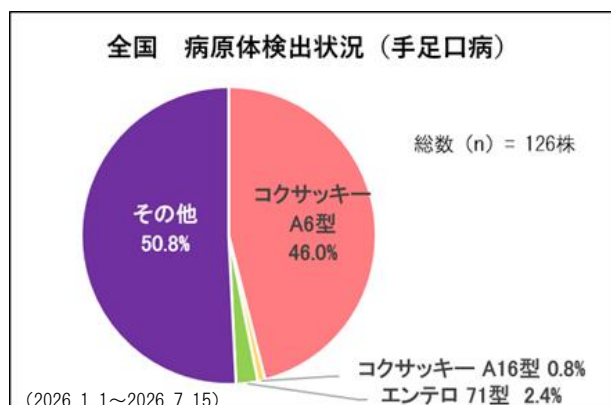
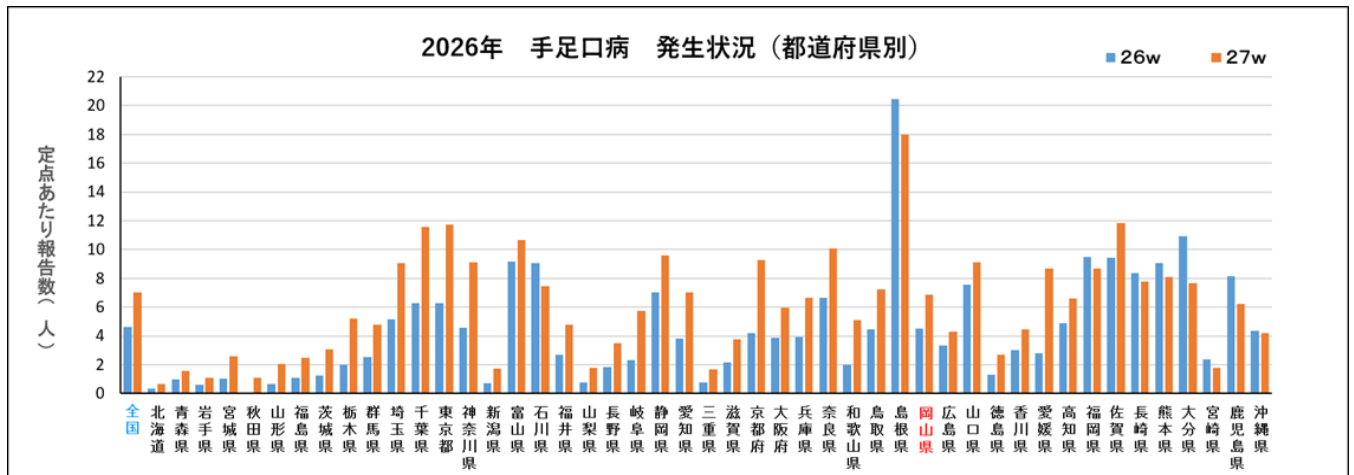
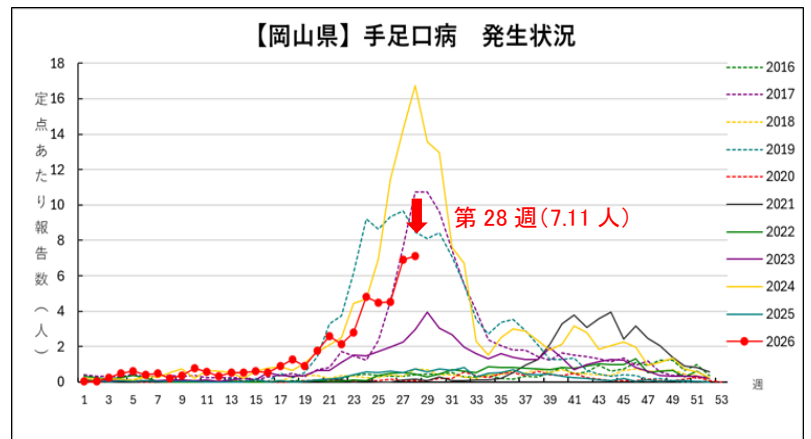
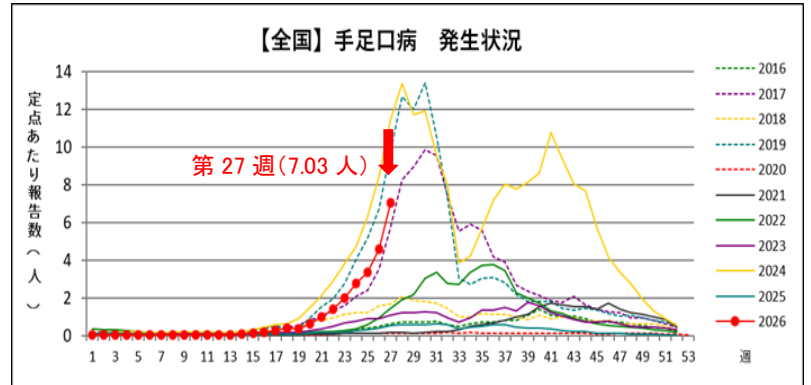
3～5日の潜伏期間の後、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発しんが出現します。発熱は約1/3に見られますが、一般に軽度です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎や急性弛緩性麻痺などを起こすことがあります。

●発生状況

全国の第27週の定点あたり報告数は、第26週から増加しました（4.61 → 7.03人）。都道府県別では、島根県（18.00人）、佐賀県（11.83人）、東京都（11.72人）の順に多くなっています。

岡山県では、第28週に県全体で199名（定点あたり7.11人）の報告があり、地域別では、備中地域（17.00人）、備前地域（9.00人）、岡山市（8.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、第28週までで0～3歳が92%を占めています。

なお、2026年は全国的にコクサッキーウイルスA6型の検出が多くなっています。岡山県でも4月以降に環境保健センターに搬入された手足口病患者の検体（5検体）から検出されたウイルスは、すべてコクサッキーウイルスA6型（5株）でした。



●治療および予防法

治療はなく、対症療法が行われます。口の中に発しんができ食事を取りにくい、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、高熱が出る、おう吐する、頭を痛がる、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。有効なワクチンはないので、患者との濃厚な接触を避け、**せっけんや流水による手洗い**を励行し、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは特に注意が必要です。

詳しくはこちらをご覧ください

⇒ [手足口病（厚生労働省）](#)

[手足口病（国立健康危機管理研究機構）](#)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

国内での麻しんの報告数が増えています

2023 年以降「麻しん（はしか）」の世界的な流行が続いており、海外からの輸入リスクが高まっています。その影響で、国内の報告数も増加（前年同時期比 3.1 倍（2026 年 7 月 8 日時点））しており、引き続き注意が必要な状況です。

発生動向

- ・国内の患者は 10-20 代を中心にみられ、医療機関や学校、公共交通機関など、人が集まる場所での感染も確認されています。
- ・10-20 代の患者では、2 回のワクチン接種が済んでいない方や接種歴不明の方が約半数を占めていました。

お願いしたいこと

- ・麻しんワクチンの 2 回接種が確認できない場合は、医療機関にご相談ください。
- ・麻しんの流行がみられる国や地域に渡航する方は、接種歴を確認し、2 回接種が確認できない場合は、渡航前の接種を検討ください。
- ・発熱、発しん、せき、鼻水、結膜充血など、麻しんが疑われる症状がある場合は、事前に医療機関へ連絡したうえで受診し、渡航歴や接触歴があればお伝えください。

麻しん（はしか）（厚生労働省）

海外渡航者への麻しんの注意喚起（厚生労働省）

[海外へ渡航される方へ](#)

[海外から帰国された方へ](#)



疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.04	1	0.06	1	0.08	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
COVID-19	80	1.60	16	0.89	26	2.17	2	0.50	7	1.40	18	4.50	3	1.50	8	1.60
急性呼吸器感染症	2545	50.90	1073	59.61	607	50.58	143	35.75	467	93.40	128	32.00	14	7.00	113	22.60
RSウイルス感染症	3	0.11	—	—	1	0.14	—	—	2	0.67	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	5	0.18	3	0.30	—	—	—	—	2	0.67	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	1.43	21	2.10	12	1.71	4	2.00	2	0.67	—	—	—	—	1	0.33
感染性胃腸炎	102	3.64	53	5.30	15	2.14	3	1.50	18	6.00	1	0.50	—	—	12	4.00
水痘	10	0.36	10	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手足口病	199	7.11	80	8.00	35	5.00	18	9.00	51	17.00	5	2.50	—	—	10	3.33
伝染性紅斑	6	0.21	1	0.10	1	0.14	—	—	1	0.33	—	—	—	—	3	1.00
突発性発しん	11	0.39	7	0.70	1	0.14	—	—	3	1.00	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	52	1.86	17	1.70	9	1.29	1	0.50	21	7.00	2	1.00	—	—	2	0.67
流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	3	0.60	1	1.00	1	1.00	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.04	1	0.06	1	0.08	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	5	0.18	3	0.30	—	—	—	—	2	0.67	—	—	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	1.43	21	2.10	12	1.71	4	2.00	2	0.67	—	—	—	—	1	0.33
感染性胃腸炎	102	3.64	53	5.30	15	2.14	3	1.50	18	6.00	1	0.50	—	—	12	4.00
水痘	10	0.36	10	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手足口病	199	7.11	80	8.00	35	5.00	18	9.00	51	17.00	5	2.50	—	—	10	3.33
伝染性紅斑	6	0.21	1	0.10	1	0.14	—	—	1	0.33	—	—	—	—	3	1.00
ヘルパンギーナ	52	1.86	17	1.70	9	1.29	1	0.50	21	7.00	2	1.00	—	—	2	0.67
流行性耳下腺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2026年 第28週 2026/07/06～2026/07/12)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	
COVID-19	80	3	1	1	2	5	3	4	2	2	7	5	19	4	2	11	6	1	-	2	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	2545	279	1221	487	191	30	48	53	41	49	44	53	49

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	-	-	-	1	1	1	-	1	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	-	-	4	5	2	3	3	4	1	7	4	7	-
感染性胃腸炎	102	-	7	21	11	8	9	12	3	3	5	4	11	3
水痘	10	-	-	-	-	1	-	1	5	1	1	1	-	-
手足口病	199	5	19	91	36	23	8	7	5	-	1	2	1	-
伝染性紅斑	6	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	2	-	-
突発性発しん	11	-	3	6	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	52	2	5	27	9	2	2	1	1	1	-	-	1	-
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	3	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2026 年 第 28 週

分類	疾病名	2026		2025	疾病名	2026		2025	疾病名	2026		2025
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	4	130	237	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	－	37	95
	腸チフス	－	1	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	4	4	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	1	2
	エキノкокクス症	－	－	－	エムボックス	－	－	－	黄熱	－	－	－
	オウム病	－	－	－	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－
	キャサヌル森林病	－	－	－	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－
	コクシジオイデス症	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	2	8
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	－
	デング熱	－	－	1	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	6	19
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	－
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	6	28	58
	レプトスピラ症	－	－	1	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	4	8	ウイルス性肝炎	－	－	2	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	－	8	20
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	－	－	2	急性脳炎	－	7	14	クリプトスポリジウム症	－	－	－
	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	8	21	後天性免疫不全症候群	－	4	9
	ジアルジア症	－	－	－	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	4	9	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	32	55	水痘(入院例に限る。)	－	9	6	先天性風しん症候群	－	－	－
	多剤耐性緑膿菌感染症	－	－	－	梅毒	5	89	253	播種性クリプトкокクス症	－	－	3
	破傷風	－	1	－	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	－
	百日咳	3	86	2148	風しん	－	－	－	麻しん	－	－	5
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－

